

第3部 希望の家の運営

I 令和7年度事業総括

第1 課題及び基本方針への対応

コンサルテーションを導入して2年経過し、希望の家3施設ともに、支援者としての専門性向上への意識が高まり、『根拠ある支援』をキーワードとして、これまで当たり前に行っていた支援や取り組みに対しても、あらためて振り返る場面が増えています。利用者に対する姿勢や関わり方などについて、方向性や意識の共有化を進めることができた一方で、利用者それぞれの特性に合わせた構造化支援の構築など、実践面においてはまだまだ課題が残ります。

また、前年度に引き続き、利用者及び家族の高齢化に伴う退所など、利用者が生活環境の急変を余儀なくされるケースも相次ぎました。不安を抱く利用者の気持ちに寄り添い、状況や見通しの整理、関係機関等との密な連携を図るよう留意して進めました。大きな混乱はなく、それぞれ新しい生活に移行されましたが、それらの過程を通じて、本人意思を尊重した自己決定支援、将来を見据えた生活力向上の重要性を再認識しました。

第2 重点項目の総括

1 ライフステージの変化に合わせた個別支援

緊急時に限らず、日常的に家族や関係機関等、本人を支える関係者と密な連携を図り、信頼関係の構築に努めました。精神面、身体面の変化や、行動面の様子など、こまめにやりとりをし、偏食傾向の高い方への食事提供を工夫するなど、支援に活かしました。

2 地域とつながる施設運営

3施設それぞれ、様々な形式での地域交流に努めました。ボランティア、見学者の積極的な受け入れや、地域イベント開催にも取り組みました。イベントは、楽しみながら参加していただくことで施設について知っていただき、障がい理解を深めていただけることを目的に、地域の自治会や学校、福祉施設等からも協力をいただき企画運営しました。

3 知的障がい、自閉症支援の専門性向上

コンサルテーションによるOJTや事例検討を通して、専門性向上に努めました。支援の意図や必要性を明確にした上で、職員の共通理解を図ることを目指しています。

4 危機管理体制の整備

現状に即した事業継続計画（BCP）となるよう見直しを図りました。家族や関係機関と連携した訓練について検討しましたが、今年度は実施に至りませんでした。

Ⅱ 個別事業

第1 調布市希望の家の運営

番号	事業名	財源			
(1)	調布市希望の家運営受託事業	自主	補助	委託	利用
		寄他		市	○

結果の概要

- 利用者と家族の高齢化が進み、家族による介護の限界を迎え、利用者が入所施設や遠方のグループホームへ移行するケースがあった。利用者の体調変化の観察、早期の病気発見と診断、治療など、家族（親や兄弟姉妹）・医療機関・福祉の支援機関等と連携し、支援を行った。
- 自閉症・強度行動障害支援の専門家による助言を定期的に受け、支援現場の状況、職員との打ち合わせを重ね、利用者の観察と記録の方法やチームでの分析、支援方法の改善に努めた。
- 個別支援計画に基づいた支援を行い、利用者及び家族との面談・自宅訪問・電話連絡等により、利用者への理解を深めるとともに、施設と家族が互いの状況を共有することで、信頼関係の構築に努めた。
- 日々の室内活動や外出時にも、常に安全面に配慮し、事故・ケガの防止に努めた。

1 利用人数

結果の概要

- 本場は年度当初は利用者23人であったが、1人入所、2人退所され、年度末時点で22人となった。
- 分場は年度当初は利用者8人であったが、1人退所され、年度末時点で7人となった。

実績等

利用実績（年間）※休日／土日祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
調布市希望の家本場	利用人数（人）	23	23	24	24	24	24	24	24	23	23	23	23	287	23.5
	開所日数（日）	21	20	21	22	20	20	22	18	20	19	18	21	242	20.1
	のべ出席人数（人）	445	413	419	442	393	399	434	350	397	383	358	421	4854	404.5
	出席率（%）	92	90	83	84	82	83	82	81	86	88	86	87		85.3
調布市希望の家分場	利用人数（人）	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	96	9.0
	開所日数（日）	21	20	21	22	20	20	22	18	20	19	18	21	242	20.2
	のべ出席人数（人）	155	147	154	167	146	150	159	133	148	137	133	157	1,786	148.8
	出席率（%）	92	90	85	87	84	86	84	84	88	88	88	89		87.1

利用者年齢構成等（令和8年3月31日現在）

	調布市希望の家本場			調布市希望の家分場			全体
年 齢	男	女	小計	男	女	小計	合計
～19 歳	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
20～29 歳	7 人	3 人	10 人	0 人	2 人	2 人	12 人
30～39 歳	6 人	0 人	6 人	1 人	1 人	2 人	8 人
40～49 歳	0 人	0 人	0 人	1 人	0 人	1 人	1 人
50～59 歳	2 人	0 人	2 人	0 人	0 人	0 人	2 人
60 歳～	0 人	4 人	4 人	1 人	1 人	2 人	6 人
計	15 人	7 人	22 人	3 人	4 人	7 人	29 人
平均年齢	33.2 歳	50.3 歳	38.6 歳	44.7 歳	36.0 歳	39.7 歳	38.9 歳

利用者障害支援区分構成（令和8年3月31日現在）

	調布市希望の家			調布市希望の家分場			全体
障害支援区分	男	女	小計	男	女	小計	合計
区分1～2	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
区分3	0 人	2 人	2 人	0 人	0 人	0 人	2 人
区分4	1 人	1 人	2 人	1 人	0 人	1 人	3 人
区分5	10 人	1 人	11 人	2 人	2 人	4 人	15 人
区分6	4 人	3 人	7 人	0 人	2 人	2 人	9 人
計	15 人	7 人	22 人	3 人	4 人	7 人	29 人

※内、重度支援対象者2人
※内、重度支援対象者11人
※内、重度支援対象者7人
※平均支援区分5.1

2 健康維持、教養娯楽活動、各種イベント等

結果の概要

- 講師と相談しながら、利用者のADLの変化に伴う、プログラム内容や運動強度の見直しを行った。
- 各教室活動や作業療法等、専門の講師による活動を継続的に行い、体調や体力の維持、集団活動の楽しさを体感できるよう工夫した。
- 健康維持のため、定期的なラジオ体操や室内運動、ウォーキング等の運動の機会を提供した。
- ハロウィン・節分・バレンタイン等、季節感を取り入れた日中活動を企画、実施した。

実績等

定例活動	回 数／内 容
体操（ダンス）教室	本場：月2回・2時間（30分間×4グループ）／ストレッチや筋トレが中心で、体力や年齢を考慮したグループ編成で行っている 分場：月1回1時間／前半にストレッチ、後半にダンスを行っている。
音楽教室	月1回・1時間／合唱と楽器演奏
ジャンベ教室	月2回・20分／打楽器の演奏

作業療法活動	月1回・50分／作業療法士による運動機能維持等の活動
あーと教室	本場のみ：月1回1時間／手芸や工作などの創作活動
ラジオ体操	本場：週1回 分場：毎日
ウォーキング	不定期・1時間～1時間30分
フィットネス	本場：週2回／ウォーキング・サーキットトレーニング 分場：週1回／健康体操等

イベント活動	実施日／内 容
日帰り旅行（バスハイク）	10月17・24日／横浜八景島シーパラダイスに貸し切りバスで行った。
リフレッシュ活動	少人数のグループに分かれ、外食を伴う外出活動を行った。
運動会	6月6日調布市総合体育館にて福祉作業所等連絡会の運動会に参加。
音楽鑑賞会	11月5日／プロミュージシャンによるサクソとアコーディオン演奏
年度末お楽しみ企画	本場では利用者に工賃一時金(3,000円)を支給し、イトーヨーカドー国領店にて、自由に飲食や買い物を楽しんだ。また、日頃より活動を支えてくださっているボランティア・送迎員への感謝を伝えるお疲れさま会を実施した。分場では近隣の喫茶店「ラッキー笑店」へ行き、臨時職員によるマジックショーを楽しみ、スイーツや飲み物を注文しボランティアの方と交流をした。
作品展示会	9回目となる手づくり展を総合福祉センター1階ウィンドウギャラリーとたづくり11階みんなの広場にて、『日本の童謡』をテーマに行った。

分析・課題

- 本場では利用者の年齢層が20～70歳代と幅広く、人数も多いため、年齢や体力の違い、特性や相性に応じた利用者のグループ編成をしている。
- 本場の高齢のグループでは、座ったままできる体操の動画を見ながら運動をするプログラムを不定期に実施している。
- 少人数グループでの1日外出「リフレッシュ活動」を行い、行き先は複数の候補から、利用者が選択できる工夫をしている。

3 生産活動

結果の概要

- 企業の受託作業はこれまで同様、榮太樓総本舗の和菓子梱包、六和精工の部品をビニール袋に入れる作業等を受注している。
- 自治体からの古紙回収・公園清掃等は継続し、作業所等連絡会の共同受注によりポスティングも定期的に実施した。
- 自主製品については、利用者の絵や文字を取り入れた名刺、メモ帳等、新たな商品の開発にも取り組んだ。福祉まつりや施設イベント以外の、地域イベントにブース出店するなど、販売機会の拡大にも努めた。
- 地域のNPO「フードバンク調布」の食品運搬業務も継続して受託した。
- 分場利用者がスウェーデン刺繍を施した生地や、毛糸のくさり編みは、ボランティアの協力を得て製品化され、好評を博している。

実績等

企業等からの受託	和菓子の箱詰め、部材の袋入れ、ゴルフボール研磨、ネジの組立て
自治体からの受託	古紙回収
作業所等連絡会の共同受注	公園清掃、ポスティング（ふくしの窓、じょいなす、ごみカレンダー）
手作り品製作販売	織物、刺繍、アクセサリ、レターセット、名刺、くさり編み小物等
常設委託販売先	総合福祉センター1階『若草ショップ』
イベント販売	福祉まつり、小地域交流事業イベント、近隣地域のイベント等

分析・課題

- 定期受注している「榮太樓」「六和精工」からの作業は繁忙期と閑散期があるが、令和7度は閑散期に、他の企業から単発作業を大量に受注したため、年間通して安定した生産活動を提供できた。
- 利用者それぞれの特性等に合わせて提供している「自立課題」は、達成感や自己肯定感を得られると同時に、受注作業の練習にもなるよう、さらなる開発が必要。
- スウェーデン刺繍の生地を製品化したコースターが、市内の飲食店で採用され、利用者のモチベーション向上に繋がった。

4 昼食提供

結果の概要

- 配達弁当にて、普通食と低カロリー食を提供している。肉禁やアレルギー食、きざみ食等、個別の対応も行った。（希望があれば弁当持参可）

実績等

種類	回数／内容
配達弁当	原則として毎昼食「まごころ弁当」
出前（テイクアウト）	1～2ヶ月毎に1回、利用者ニーズに合わせ市内店舗に発注
カレー	月1回、市内店舗に発注

分析・課題

- 利用者の健康状態に応じて、その都度食事形態を変更した。
- 月に1回のカレーや、出前（テイクアウト）注文により、「食」を楽しめるよう工夫した。

5 健康診断、健康管理

結果の概要

- 健康相談と合わせて問診（本場7回・分場3回）を実施し、健康診断の結果から医師のアドバイスを聞き、利用者・家族と情報を共有した。
- 看護師による月1回の体重・血圧測定を実施し、連絡帳で家族へ伝え、年間を通しての利用者の推移を共有した。
- 歯科健診を行い、歯の状態確認とブラッシング指導、歯科医師のアドバイスを聞き、利用者・家族

と情報共有した。

○災害時に備えて、原則、1日分の薬を預かり、希望があれば3日分預かる形に変更した。

○利用者の体調に変化があるときには、家族やグループホーム、関係者と情報共有に努めた。

実績等

種類	回数及び実施日時／内容
健康診断（多摩川病院）	5月30日／施設内で身体測定、検尿、胸部X線、血液検査、HBs抗原抗体検査、HCV抗体検査、クレアチニンを実施。40歳以上を対象に、心電図、腹囲検査を実施。 6月13日／40歳以上を対象に院内で眼底、骨密度検査を実施。
体重・体脂肪・血圧測定（看護師）	月1回／施設内で実施。希望の家看護師による測定。 月の推移をチェック。
インフルエンザ予防接種	季節性インフルエンザワクチンの予防接種 本場：10月21日 分場：11月29日
歯科健診（調布歯科医師会）	本場：7月2日 分場：7月1日
聴診、健康相談（嘱託医）	本場年7回・分場年3回、希望者及び健康診断結果を基にした対象者／健康の相談及びアドバイス

分析・課題

○高齢化や重症化リスクの高い利用者が多いため、引き続き、感染症対策や転倒などのケガ防止を日常的に行った。

○家族との面談時や連絡のやりとりで、家族が主治医から受けたアドバイスや服薬調整を聞き取り、職員のチーム内でも共通理解を図った。また、施設内でも細かな変化を職員から家族へ伝え、病気の早期発見・診断につながるよう取り組んだ。

○毎月の健康チェックや健康診断結果から、数値化したものを家族と共有し、生活習慣病等の予防のため共通理解を図った。

○グループホーム利用者に関して、グループホーム職員と受診結果を共有し、日々の支援に活かした。

6 当事者活動の支援

結果の概要

○利用者、家族の当事者活動を支援し、その意見を施設運営に反映するよう努めた。

*利用者自治会（利用者で構成する会）

2ヵ月に1回、場所は3施設の持ち回りによって、集合型で開催し、3施設の活動報告や情報交換を行い、また、飲食機会も設けて利用者の楽しみとなるような工夫を試みた。

*家族連絡会

年に2回開催し、施設からの近況報告や意見交換等を行った。後半は、家族が主催する「家族会」とし、開催案内や出欠席のとりまとめ等に協力した。

実績等

団体名	回数／内容
利用者自治会	2ヶ月に1回（3施設合同）／行事や活動の報告・計画等
家族連絡会	年2回／施設からの情報伝達、意見聴取等

分析・課題

- 利用者自治会において、活動内容の希望を集約したが、運営体制上の制約もあり、どこまで反映できていたかについては精査が必要である。
- 家族連絡会では施設からの情報発信を行っているが、欠席者も多く、すみやかに資料の配布を行うよう心掛けた。同日開催の家族会含め、出席率の低さが課題となっている。

7 送迎事業

結果の概要

- 自力通所が困難な利用者を対象に提供した。新たに送迎の希望が出た場合への柔軟な対応、待ち合わせの場所や時間への細かな配慮を行った。
- 利用者の体調や安全面を考え、乗降時の順番や見守りのサポートを丁寧に行った。
- 配慮を要する利用者やショートステイを利用する方に対して、個別送迎を実施した。
- 利用者に怪我はないが、物損事故が複数件発生した。
- 本場にて9月に送迎員と職員での懇親会を実施し、日頃の悩みや送迎業務に関する意見交換の機会を設けた。

分析・課題

- 引き続き利用者の特性や相性等を考慮した組み合わせでの運行が必要である。
- 運転手、添乗員が協力し周囲の状況を把握しながら事故防止に努めることが重要である。

8 運営管理業務

(1) 苦情や要望の受付と問題解決

結果の概要

- 第三者委員2人と苦情受付担当者1人、危機管理責任者1人を置いて相談窓口とし、苦情・要望への相談対応や問題解決に努めた。
- より良い施設運営に向けた取組として、毎日の振り返り時に出しあった意見（ヒヤリハット等）を「気付きメモ」として記録し、第三者委員会に向けて分析を行った。
- ネガティブな面だけでなく、ポジティブな面にも目を向け、効果があった支援や利用者の成長が感じられた場面等の「にやりほっと」についても、共有している。

実績等

- 第三者委員会を10月、3月に実施。事業実施状況、利用者・家族アンケートの結果報告、事故・苦情や気付きメモの報告を行い、課題解決に向けて意見交換した。職員の虐待防止チェックリストの結果報告を行い、委員より意見を頂いた。

分析・課題

○第三者委員より、以下のような意見を頂いた。

- ・悩み続ける姿勢が良い支援に繋がる。職員も心のゆとりを持ち、「やらなければならない」とプレッシャーをかけ過ぎない。利用者を大事にすることは、自分自身を大事にすることにも繋がる。
- ・上司や同僚とのコミュニケーションに課題を感じている職員が約 20%存在している。「孤立」や「相談のしにくさ」こそが、不適切な対応や虐待に繋がる根本的なリスク。まずは身近なコミュニケーションの改善から取り組むことでヒヤリハットなどの減少にも繋がっていく。
- ・普段乗り慣れないハイエースなどの大きな車両で、細い道を運転するのは難しいが、車両事故が減少しているということは職員が注意して運転しているということ。
- ・18 歳までは放課後等デイサービスを利用していた方が、18 歳以上になると利用ができず、施設からの帰宅が 16 時過ぎと早くなってしまう。このことで、家庭の負担が重くなってしまうため延長支援のニーズが極めて高いことが伺える。

(2) 運営委員会

結果の概要

○5 月、10 月、2 月の年 3 回実施した。希望の家深大寺運営委員会との合同開催とした。

実績等

調布市希望の家運営委員会委員構成 任期：令和 6 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日（敬称略）

	氏 名	選出区分
委員長	日比生 信義	地域関係機関（石原小学校地区協議会）
委 員	夏目 純一	市民有識者
委 員	進藤 美左	NPO 法人調布心身障害児・者親の会
委 員	菊池 利恵子	希望の家家族会
委 員	松永 美恵子	調布市希望の家自治会
委 員	渡辺 哲男	関係機関（調布市社会福祉事業団）
委 員	能登 和子	関係機関（調布市民生児童委員協議会）
委 員	山田 亜里沙	調布市福祉健康部障害福祉課係長
委 員	田中 賢介	社協評議員
委 員	嵐 祐子	社協理事

※希望の家深大寺運営委員会との合同開催とし、両委員会の委員長は副委員長も兼ね、両委員長が輪番で議長を務めた。

令和 7 年度 調布市希望の家及び希望の家深大寺合同運営委員会開催状況

回数	開催日	内容	出席人数
第 1 回	5 月 28 日	令和 6 年度事業報告、決算報告、希望の家 3 施設の近況報告	11 人
第 2 回	10 月 29 日	令和 7 年度上半期報告、令和 8 年度予算案等について	12 人

第3回	2月25日	令和8年度希望の家事業計画（案）、予算について	10人
-----	-------	-------------------------	-----

分析・課題

- 事業内容、職員育成、予算案など、各委員より様々な視点で意見をいただき、それらを職員会議等で共有することで、運営に反映していけるよう努めた。
- 利用者構成の変化により、来年度改選となる運営委員会から選出母体を見直し、利用者自治会からの委員推薦は行わないこととなった。継続して利用者の声も反映していけるよう、オブザーブ参加など、利用者に負担を課さない形での参画を検討していく。

（3）サービス評価

結果の概要

- 3年に1度、外部機関による第三者評価を実施しているが、令和7年度は該当しないため、施設での利用者・家族アンケートを実施した。
- 評価結果については、運営委員会・第三者委員会・家族連絡会で報告、家族への書面での報告、及び職員向けには会議等で共有した。

事業評価

項 目	内 容
利用者アンケート調査	利用者本人及び家族の代筆による回答、第三者的な立場にあるボランティアによる利用者への聞き取り
家族アンケート調査	家族へ書面によるアンケート調査

分析・課題

- 概ね良い評価をいただけたが、期待する取り組みへの意見や改善意見等もあったため、定期的に振り返る機会を設けて検討していく必要がある。

（4）知的障がい、自閉症支援の専門性向上

結果の概要

- コンサルテーション2年目となった。令和6年度は、本場の利用者を支援対象としたが、令和7年度は分場の利用者を支援対象として実施した。2年間かけて特性や課題の異なる2人を対象としたことで、視点や支援の幅を広げることができた。3施設すべてで実践を通した学びを得ることができたこと、複数の職員が担当者として直接、密度の高いOJTを受けることができたことは、施設全体への波及効果にも期待ができる。
- 並行して、近隣地域の施設職員でコンサルテーション業務を行っている方に、事例検討会への協力を依頼した。各施設で、コンサルテーションの対象となっていない、支援の見直しの優先度の高い方から、アセスメントを深め、構造化の組み立てや支援の標準化に取り組んだ。
- 3施設合同の全体研修では「叱る依存がとまらない」の著者によるオンライン講演を実施し、送迎に関わる運転手・添乗員も含めて、日頃の対人援助の姿勢を振り返る機会となった。

実績等

研修会等	主催・場所
虐待防止・権利擁護研修	東京都社会保健財団
防火・防災管理新規講習	東京消防庁
社会福祉事業従事者人権研修【1】	東京都福祉保健局
強度行動障害支援者養成研修（基礎）	東京都社会保健財団、明星大学
サービス管理責任者実践研修	東京都社会保健財団
リーダーシップ研修	東京都福祉人材センター
接遇・マナー研修	東京都福祉人材センター
地域福祉コーディネーター等養成研修基礎編	東京都社会福祉協議会
てんかん基礎講座	日本てんかん協会
支援に悩んだ事例の実践報告会	横浜市金沢区自立支援協議会
直接介助におけるリスクマネジメント研修	東京都福祉人材センター
高齢知的障害者の認知症とその支援	東京都福祉人材センター
行動援護従事者養成研修	調布市福祉人材育成センター
普通救命講習（AED）	調布市社会福祉協議会
施設見学	パサージュいなぎ・ハートポートこもれび

※上記以外に社協全体での研修等に参加

分析・課題

○各職員が自発的に主体性をもって参加した。内容は社会福祉に関する知識を広げるものや、現場支援における課題と関係するもの、資格要件に該当するもの等、多岐に及ぶ。ただ、時に職員個人の学びで完結してしまったものもあり、それぞれが研修で得た学びを他職員と共有し、業務に活かしていく意識啓発と機会づくりが必要となっている。

（５）事業・建物管理

- 調布市障害福祉課及び法人事務局と連携して、円滑な運営に努めた。
- 消防署の立ち入り検査で指摘を受けた本場排煙窓の清掃と交換など、老朽化した部分を改善した。

（６）危機管理体制の整備結果の概要

- 衛生推進者を設置し、法人の衛生委員会に出席すると共に、衛生管理や労働環境整備に努めた。
- 毎月１回程度、火災や地震を想定して、点呼・避難訓練を実施した。災害時に利用者が非常食を食べられるのかわからなかったため、賞味期限間近の非常食を試食する機会を設けた。
- 自然災害発生時及び感染症発生時におけるBCP計画の見直しをした。
- 年３回（５、９、１月）、施設ごとに感染対策委員会を開催した。

分析・課題

○BCP 計画に則した訓練や備蓄品管理が不十分であったため、実践的な取り組みの検討が必要。

(7) 安定した施設運営の検討

結果の概要

- 衛生推進者を設置し、法人の衛生委員会に出席すると共に、衛生管理や労働環境整備に努めた。
- 事務業務が集中してしまい、時間外勤務が増えた職員が複数名いたが、全体的に休憩時間の確保及び休暇取得は向上し、相互フォローの体制が円滑に図られた。

分析・課題

- 突発的に体制上の課題や負担が生じることがあり、3施設間での相互フォローをより円滑に進める工夫が必要となっている。

9 地域とつながる施設運営

結果の概要

- 本場では地域交流イベントとして、11月に「ビューティーサロン」を開催し、ヘアメイクのプロやネイリストの協力を得て、地域住民の方や希望の家利用者にメイクやネイルの施術を行った。参加された方々はみなさん笑顔で、実施後のアンケートにおいても良い反響が数多くあった。
- 東部公民館文化祭で自主製品販売を行った。生憎の天気だったが、多くの方に製品を手にとっていただくことができた。また、会場で出会った方から、後日、毛糸等の寄付をいただいた。

実績等

活動名	内容等
ビューティーサロン	本場地域交流イベントとして11/21に開催
季刊誌の配布	施設周辺地区の民生児童委員、自治会、公共施設等に配布した。
小地域交流事業への参加	富士見・入間地域の行事にそれぞれ自主製品の出店等で参加した。
災害時の地域貢献	障がい者等に配慮した避難場所として市の指定を受けている。
会議室(本場2階)の貸出	地域住民への貸し出しを実施した。

分析・課題

- 本場の地域交流イベントの時期、内容は固定されておらず、年度ごとの企画となっているため、検討や準備に時間と労力を要するが、地域の方や利用者が楽しめる企画を試行錯誤し、自ら作り出して実行していくことは、各職員の主体性と発想力が発揮され、利用者と職員が一体となって達成感を得られる機会にもなっている。
- 分場では日頃より、近隣の商店や寺院とのつながりによる活動機会を設けているが、さらなる広がりを検討したい。

10 その他

(1) ライフステージの変化に合わせた個別支援

結果の概要

- 利用者の年齢や体力面、特性に応じた個別支援計画に基づき、日中活動や作業の提供を行った。計画の提示及びモニタリングは利用者や家族との面談、訪問、電話にて実施した。
- 関係機関と密に連絡調整をしながら、医療・健康面の情報共有、支援について共通理解を図った。
- リフレッシュ活動では希望選択制をとり、グループごとにそれぞれの利用者が1日かけて遠方に外出し、食事や観光を楽しむ機会を提供した。
- 分場は少人数体制のため、各利用者の施設外での様子を知る機会、好きな物や好きなことを知る機会として、積極的に個別活動を行った。

分析・課題

- 関係構築が不十分な機関もあり、様々な機会を通して関係性の構築に努めることが大切である。
- 利用者家族の高齢化が著しいため、家族の体調面も含めた相談や配慮が必要となる。また、親亡き後も見据えた、兄弟姉妹・後見人との連携をしっかりと行う必要がある。
- 個別活動にて行動を共にすることで、その利用者の社会性や得意なこと・苦手なことを把握することができた。また、余暇活動を充実させたことでメリハリもつき、施設での活動のモチベーションも上がった様子が見られた。様々な機会を通して、各利用者の特性等を把握していくことに努める。

(2) 広報

結果の概要

- 手づくり展を初めて巡回型として各所で開催した。作品をきっかけに、希望の家を知ってもらえるよう「希望の家紹介パネル」も展示した。
- 個人情報保護を徹底するため、広報紙等での写真の利用は本人及び家族の同意を得た上で行った。
- 令和7年度は季刊誌を3回発行し、利用者の手書き文字や感想を取り入れた。また、写真をふんだんに使い、利用者にも見やすいように紙面を工夫した。
- 施設ホームページは、写真を増やすなど、随時更新を行った。

実績等

種 類	回数／内容
月のお知らせ	月1回／利用者・家族・関係者向けの予定表とお知らせ
季刊誌	年3回／行事や活動、販売会の売り上げ報告等
ホームページ（社協ホームページ内）	随時更新をした。

分析・課題

- 季刊誌の紙面については、担当者間の打ち合わせで創意工夫し、カラフルで明るい紙面とした。
- 地域住民への施設理解を広めるために、ホームページにて季刊誌を閲覧できるようにする等、積極的にネット媒体も活用した。

(3) 実習生・ボランティアや見学者の受け入れ

結果の概要

- 引き続き、近隣のボランティアに利用者支援や作業・活動をサポートしていただいた。
- 分場では手芸が得意な近隣住民の方とのつながりが新たにでき、利用者が作成した刺繍や編み物を自主製品に仕立ててくださる取り組みが継続している。
- 社会福祉士等を目指す学生や医学部生など、学生の現場実習を積極的に受け入れた。

実績等

行事・活動	人数	内容
織物・刺繍製品仕立て	1人	縫製
日中活動	5人	作業補助等
園芸作業	1人	作業の手伝い、園芸
各種教室活動	7人	教室講師等
慈恵医科大学及び社会福祉士実習生	6人	
府中けやきの森学園からの実習生	5人	
合計	25人	

第2 希望の家深大寺管理運営

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	利用
(1)	希望の家深大寺管理運営事業	他	市都		○

結果の概要

- 地域のつどいを令和6年同様、土曜日に開催した。初めての試みとして、調布北高軽音楽部に出演いただいた。
- 自閉症・強度行動障害支援の専門家によるコンサルテーションを継続し、支援の再構築・見直しを行った。職員同士で日頃の支援の在り方を検討し、職員全体の支援の質向上に努めた。
- 年1回の日帰り旅行、年2回のリフレッシュ活動、月1回のお楽しみ活動、年度末お楽しみ会等については、職員体制にも配慮しながら、各利用者にとって楽しめる取り組みとなることを重視して、企画・実施していくことに努めた。
- 毎日の支援の振り返りミーティング、定例でのグループ会議、全体会議等を通して、職員間での認識の共有を深めるとともに、互いに意見を出しやすく風通しの良い職場となるよう努めた。また、職員が輪番で毎月の虐待防止目標を掲げ、朝会での復唱や毎月の全体会議にて振り返りを行った。
- 個別支援計画に基づいた支援を行い、必要に応じて家族や関係機関と連携しながら取り組んだ。

1 利用人数

結果の概要

- 年度当初に1人入所され、利用者20人となったが、年度途中で1人退所されたため、年度末時点で

は19人となった。

実績等

利用実績（年間）※休日／土日祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
利用人数(人)	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20		20人
開所日数(日)	21	20	21	22	20	20	22	18	20	19	18	21	242	20.2日
のべ出席人数(人)	356	334	336	329	277	284	336	266	288	300	280	326	3712	309.3人
出席率(%)	85	84	80	75	69	71	76	74	72	79	78	77		76.7%

利用者年齢構成等（令和8年3月31日現在）

年 齢	男	女	小計
～19 歳	0 人	1 人	1 人
20～29 歳	8 人	4 人	12 人
30～39 歳	3 人	1 人	4 人
40～49 歳	1 人	0 人	1 人
50 歳～	1 人	0 人	1 人
計	13 人	6 人	19 人
平均年齢	29.2 歳	26.2 歳	28.3 歳

利用者障害支援区分構成（令和8年3月31日現在）

	希望の家深大寺		
障害支援区分	男	女	合計
区分1～4	1 人	0 人	1 人
区分5	4 人	2 人	6 人
区分6	8 人	4 人	12 人
計	13 人	6 人	19 人

※内、重度支援対象者5人

※内、重度支援対象者10人

※平均支援区分5.6

2 健康維持、教養娯楽活動、各種イベント等

結果の概要

- 専門講師によるダンス教室、音楽教室、ジャンベ教室、水泳教室、作業療法活動において、利用者の個別性に配慮し、参加しやすいようなグループ構成、活動時間等の環境設定を行った。
- 運動不足になりがちな利用者が多いため、ウォーキングや外出、施設内での軽運動等、体を動かす機会を少しでも多く取り入れるよう意識して活動を組み立てた。
- イベント外出は利用者のニーズに合ったものになるよう、多彩な選択肢を用意した。

実績等

定例活動	回数／内容
ダンス教室	月2回・1時間×2チーム／講師によるストレッチ運動やダンス
音楽教室	月2回・1時間／講師のピアノ伴奏による合唱・合奏
ジャンベ教室	月2回・1時間／講師による打楽器の自由演奏
水泳教室	月1～2回程度（5、6、9、10月）・40分×2チーム／講師による水泳活動
作業療法活動	月2回・1時間×2チーム／講師による創作及び運動機能維持等の活動
ウォーキング	1人週2回以上／近隣及び公園等での30分～1時間程度の散策
美化活動（公園清掃）	1人週1回程度／施設周辺及び指定公園の清掃活動
ミニ調理	月1回程度／昼食及びデザート程度の簡単な調理活動
入浴活動	希望者月2回程度／身体整容と気分転換を兼ねて施設内浴室で実施

イベント活動	実施日／内容
日帰り旅行（バスハイク）	10月17・24日／2回に分け、八景島シーパラダイスに行った。
リフレッシュ活動	1人2回・夏と冬に実施／目的別に小グループでの1日外出活動を実施
運動会	6月6日／調布市総合体育館にて福祉作業所等連絡会の運動会に参加
音楽鑑賞会	11月5日／プロミュージシャンによるサクソとアコーディオン演奏
地域のつどい	11月8日／地域の方との交流機会として土曜日に開催
作品展示会	9回目となる手づくり展を総合福祉センター1階ウィンドウギャラリーとたづくり11階みんなの広場にて、『日本の童謡』をテーマに行った。
年度末お楽しみ会	3月25日／各グループで喫茶店や公園に併設されている売店などでおやつを食べに行く活動を実施

分析・課題

- 利用者の興味関心、特性、体力、相性等に応じてグループ分けをし、各種活動の提供をした。また、音楽教室等の全利用者が揃う活動では、エリアを分けて安全に参加できるよう工夫した。引き続き、各利用者の動線確保など、安心安全な環境づくりを構築していく必要がある。
- 令和8年度より作業療法の講師が退任されるため、講師が行ってきた取り組みを参考に、作業療法に代わるプログラムを職員が提供できるよう検討していく必要がある。

3 生産活動

結果の概要

- 企業からの受注（ワッシャーの検査・採便管の封入・ゴルフボールの削り作業）により、年間を通して比較的安定した作業量を確保し、利用者に作業活動を提供した。
- 毎週2回、古紙回収作業を実施した。体を動かす機会にもなっている。
- 施設の花壇に咲くラベンダーを収穫して、サシェ（香り袋）や入浴剤として製品化し販売を行った。
- 調布市希望の家が受注している公園清掃の一部を協力して行った。
- 新たに「ゼロカーボンワークショップ用の紙ちぎり作業」を調布市より受託した。

実績等

企業等からの受注	ワッシャーの検査、採便管の封入、古紙回収、
----------	-----------------------

作業所等連絡会の共同受注	ポスティング（ふくしの窓、じよいなす）
調布市からの受注	ゼロカーボンワークショップ用の紙ちぎり

分析・課題

- 利用者それぞれに合わせた作業工程を工夫することで、日常的に取り組める活動として作業活動を提供することができた。新たに受注したゼロカーボンワークショップ用の紙ちぎり作業は、どの利用者にとっても取り組みやすい作業であった。
- ポスティング作業では、取り組める利用者の減少や件数が多く配布期日ぎりぎりになることが課題であったため、令和8年度より配布地域を減らすこととした。
- 施設内活動も増えているが、販売可能な自主製品の開発を含め、引き続き検討が必要である。

4 昼食提供

結果の概要

- 配達弁当にて、普通食と低カロリー食に対応して提供した。
- お楽しみとして月2回の出前（テイクアウト）や、ミニ調理（お楽しみ調理）を実施した。
- 「ミニ調理」では、自身が食べる分の一工程を各利用者が担えるように手配し、マスクやビニール手袋の着用が可能な利用者に限り、全体の準備工程にも入ってもらうようにした。

実績等

種類	回数／内容
配達弁当	原則として毎昼食。「まごころ弁当」
テイクアウトの実施	月2回／近隣の飲食店から選択制で注文を取りテイクアウトを楽しむ。
ミニ調理	月1回程度／ピザやお好み焼き、ハンバーガー等を調理して食べた。

分析・課題

- テイクアウトは2種類選択制とし、当日に取りに行くことも利用者が楽しめる活動の一つとなった。
- ミニ調理で、ポップコーン機やピザ窯を使用して出来立てを提供し、利用者の笑顔が多くみられた。
- 配達弁当のキャンセル処理のミスが続いたため、発注数を管理する仕組みを整え、職員で共有した。また、朝会で当日の発注数の最終確認をすることでチェック機能の強化を図った。

5 健康診断・健康管理

結果の概要

- 健康相談を5回実施し、必要に応じて医師からの助言を利用者家族と情報共有した。
- 健康相談には家族の同席を勧め、その際の相談から、家庭での課題を共有する機会となった。
- 看護師による月1回の体重・血圧測定を実施し、年間を通して利用者の状態推移を把握した。
- 看護師による月1回の健康チェック時以外にも毎朝の検温を実施した。また、状況によっては血圧測定や血中酸素濃度の測定を行い、利用者の体調変化の把握に努めた。
- 歯科健診を行い、歯の状態確認とブラッシング指導、歯科受診等の助言を受けた。

○こまめな手指消毒の促しや施設内の換気等を行った。また、人の手が触れる箇所や共有使用される物品等を適宜、消毒清掃した。

○災害時に備えて、1日分の薬を予備薬として預かっているが、希望があれば3日分預かる形に変更した。予備役は半期に一度（薬の形状によっては3ヶ月に1回）交換している。

実績等

種類	回数及び実施日時／内容
健康診断①（多摩川病院）	① 5月15日／施設内で身体測定、胸部X線、血圧測定を実施。
健康診断②（嘱託医）	6月13日／40歳以上の利用者には上記検査に加えて、眼底、心電図、腹囲、骨密度検査を実施。 ② 5月29日／施設内で検尿（自宅にて採尿）、血液検査を実施。
体重・体脂肪・血圧測定（看護師）	月1回／施設内で実施。希望の家看護師による測定。 月の推移をチェック。
インフルエンザ予防接種	季節性インフルエンザワクチンの予防接種。10月30日に施設内で実施。
歯科健診（調布歯科医師会）	7月10日に施設内で実施。
健康相談（嘱託医）	年5回、希望者及び健康診断結果を基にした対象者／健康の相談およびアドバイス。

分析・課題

○検尿と血液検査については、令和6年度同様嘱託医に依頼。健康相談で定期的に顔を合わせている嘱託医のため利用者也落ち着いて受検できた。利用者の健康管理については、月1回看護師による身体測定も行っていることから、令和8年度に向けて健康診断の内容や実施方法について見直しを図る。

6 当事者活動の支援（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

7 送迎事業

結果の概要

○希望する利用者にサービス提供した。令和7年度は利用者20人中18人が利用された。

○ショートステイ等を利用する場合は、市内に限り、受け入れ先への送迎を行った。

○利用者や家庭の状況によって、個別送迎の対応を行った。

分析・課題

○各利用者の特性や相性等を鑑みながら、乗車位置や送迎ルートを設定しているため、ワゴン車5台を使用し、内1台は2巡運行している。車内の安全・安心を保つために必要な対応だが、送迎に携わる職員が多くなってしまう課題がある。

○地域のつどいにて運転手・添乗員募集チラシを配布したところ、運転手に応募をいただき1名増員することができた。引き続き、運転・添乗の協力員の増員が必要である。

8 運営管理業務

(1) 苦情や要望の受付と問題解決（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

(2) 運営委員会（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

希望の家深大寺運営委員会委員構成 任期：令和6年4月1日～令和8年3月31日（敬称略）

	氏 名	選出区分
委員長	夏目 純一	市民有識者
委 員	進藤 美左	NPO 法人調布心身障害児・者親の会
委 員	菊池 利恵子	希望の家家族会
委 員	松永 美恵子	調布市希望の家自治会
委 員	矢田部 正丈	関係機関（深大寺北町山野自治会）
委 員	森井 進次	関係機関（NPO 法人わかばの会）
委 員	内藤 和男	関係機関（調布市民生児童委員協議会）
委 員	山田 亜里沙	調布市福祉健康部障害福祉課係長
委 員	田中 賢介	社協評議員
委 員	嵐 祐子	社協理事

※調布市希望の家運営委員会との合同開催とし、両委員会の委員長は副委員長も兼ね、両委員長が輪番で議長を務めた。

(3) サービス評価（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

(4) 知的障がい、自閉症支援の専門性向上

結果の概要

- 令和6年に続きコンサルテーションを受け、利用者1人の支援再構築を行った。令和6年度（2階）とは違うグループ（1階）で実施したことで、主として関わる職員が増え、視点を広げ、経験値を重ねることができた。
- 並行して、近隣地域の施設職員でコンサルテーション業務を行っている方に、事例検討会への協力を依頼し、支援を見直す機会、知識・専門性を深める機会を増やすことができた。
- 管理職が中核的人材研修を受講した。1人の利用者にフォーカスし、再アセスメント、支援再構築を行うという研修内容で、チーム全体で実践を通じた学びを深めた。
- 施設長による虐待防止・権利擁護伝達研修を実施した。研修で学んだことを共有するとともに、事例を挙げたグループワークや法人内部の虐待通報ルートの確認を行い、虐待内容の再認識と通報手段の共有化が図られた。また、職員間の虐待についての意識や連携向上にも繋がった。
- 毎夕行う振り返りミーティングにおいて、事故・ヒヤリハット・にやりほっと事例などの共有を図り、支援の見直しを全体で考えていけるようにした。また、虐待防止目標を毎月各職員が順番で考え、職員会議での振り返りや朝会での復唱も行うことで、意識啓発・向上に努めた。

実績等

研修会等	主催・場所
サービス管理責任者基礎研修	公益財団法人東京都福祉保健財団
サービス管理責任者実践研修	株式会社中川 東北福祉カレッジ
虐待防止研修（内部全体研修）	村中直人氏
東京都障害者虐待防止・権利擁護研修	公益財団法人東京都福祉保健財団
虐待防止・権利擁護伝達研修	内部研修（施設長）
強度行動障害支援者養成研修（基礎）	公益財団法人東京都福祉保健財団
災害時外国人支援基礎研修	公益財団法人東京都つながり創生財団
東京都区市町村社協新任職員基礎研修	社会福祉法人東京都社会福祉協議会
福祉職のためのメンタルヘルス研修	社会福祉法人東京都社会福祉協議会
接遇・マナー研修	社会福祉法人東京都社会福祉協議会
労働基準法等に関する研修	社会福祉法人東京都社会福祉協議会
地域福祉コーディネーター等養成研修基礎編	社会福祉法人東京都社会福祉協議会
調布市福祉作業所等連絡会学習会	調布市福祉作業所等連絡会
東京都中核的人材養成研修	公益財団法人総合健康推進財団
施設見学	バサージュいなぎ・ハートポートこもれび・なごみ

※上記以外に社協全体での研修等に参加

分析・課題

- 令和8年度も引き続きコンサルテーションを受けることで、さらなる支援の質の向上を目指す。
- 様々な研修を経て知識や専門性の意欲も高まっている。今後、職員が共通の認識として利用者個々の障がい特性等をしっかりと理解、把握して、根拠ある支援の実践をしていけるように目指す。

（5）事業・建物管理結果の概要

- 調布市障害福祉課及び法人事務局と連携して、円滑な運営に努めた。
- 各設備等の必要な定期点検を実施した。

分析・課題

- 法人立の施設であるため、計画的に修繕・改修を行っていく必要がある。

（6）危機管理体制の整備（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

(7) 安定した施設運営の検討

結果の概要

- 衛生推進者を設置し、法人の衛生委員会に出席すると共に、衛生管理や労働環境整備に努めた。
- 適切な休憩時間が確保できるよう、施設全体のスケジュールの見直しも含め、休憩に入る時間のローテーションを明確にした。安定した休憩時間確保にはまだ至れてはいないが、休憩に入る順番が視覚化されたことで、各職員が休憩確保に向けてより意識して協力していけるようになった。

分析・課題

- 突発的に体制上の課題や負担が生じることがあり、3施設間での相互フォローをより円滑に進める工夫が必要となっている。

9 地域とつながる施設運営

結果の概要

- 地域のつどいでは近隣の自治会や福祉施設等の協力による模擬店の出店やゲームコーナーのほか、新しい試みとして、こちらも近隣にある調布北高校軽音学部にステージ出演していただき、幅広い層の協力者と参加者が集う場となった。エンディングでは、恒例の音楽教室講師によるミニコンサートを行った。天候にも恵まれて、地域の方々や他事業所の方など多くの方々に知っていただくことが出来た。
- 近隣自治会の会議スペースとして機能訓練室を貸し出した。地域の社会資源として貢献すると同時に、施設への関心を寄せていただく機会になった。
- 北ノ台小地域交流事業「ふれあいフェスタ北ノ台」の会場として昨年度に続き施設を活用した。
- 北ノ台小学校2年生が授業の一環として施設見学に来られた。施設概要や日常の取組みなどを紹介し、障がい理解につながる福祉教育の良い機会となった。

分析・課題

- 社協運営による障がい者施設として、地域とのつながりを大切にし、障がい理解の普及啓発や地域福祉を推進する視点での取り組みが求められている。
- 地域資源としての役割を意識し、自治会活動等へも参画しながら、防災や防犯など、安心して暮らせる地域づくりを住民のみなさんとともに進めていきたい。

10 その他

(1) ライフステージの変化に合わせた個別支援

結果の概要

- 利用者の年齢や体力、特性等に応じた個別支援計画を作成し、計画に基づく日中活動等を行った。
- アセスメントの重要性を再認識し、利用者個々の好き嫌いや得意なこと等を簡易一覧化した個別情報シートを作成し、職員共通認識を高めるとともに、シート内容を踏まえた新たな活動の提供を試みた。普段はある程度のグループでの外出活動等を行っているが、マンツーマン対応での活動として、近隣の喫茶店で飲食するなどのお楽しみ活動を行った。
- コンサルテーションにより、自己完結の取り組みが利用者の自尊心を高め、自律した行動につなが

る、ということを学び、様々な場面において「ひとりで始めて、ひとりで終われる」仕組み・関わり方を考えるようになった。

分析・課題

○ゲームが好きな利用者が、eスポーツを通して自然に体を動かす機会を得ているように、利用者それぞれの特性に合わせた活動の在り方をより検討していく必要がある。

○利用者それぞれの能力・状況に合わせた安定的な活動として「自立課題」作業があるが、その利用者の能力、得意なこと・苦手なこと等についても改めて考えるきっかけづくりにもなった。引き続き様々な種類の「自立課題」制作に取り組んでいく。

(2) 広報（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

(3) 実習生・ボランティアや見学者の受け入れ

結果の概要

○ボランティアや協力員に、利用者支援やプログラム活動のサポートをしていただいた。市民が関わることにより、新たな視点を見つけることや地域での理解者を増やすこととなった。

○地域のつどいにて利用者家族にも販売等の協力をいただいた。日頃の利用者の様子や地域と施設との関わりを知っていただく良い機会となった。

実績等

行事・活動	人数	内容
水泳教室	1人	利用者の付き添い
日中活動、日帰り旅行	4人	利用者の付き添い等
園芸作業	1人	園芸
各種教室活動	5人	教室講師等
社会福祉士実習生	1人	
府中けやきの森学園からの実習生	3人	
合計	15人	